

追求し一段と互換性の向上を図る。②組立部分のジョイント構法の簡易化を図り作業能率を高める。③製品の多様化を図り家具配置の機能的なシステム構成を追求する。以上の3項目を支柱とする。

次に開発の前提条件として下記の各仕様を設定し、具体化を図った。①ジョイント部分の強度について…部分モデリングによる実証を行う。②材質について…開発対象は高品質品のため良質乾燥材の使用を条件とする。③パネル構造…全面フラッシュ。④加工面について…精度向上を図り高度に部品の共通化を進めコストダウンを目指す。⑤水平レベルについて…連結式家具のため床面調整金具の取付け使用を図る。⑥ジョイント金具と品質について…強靱で精巧な市販品を使用。⑦装飾性について…総合的に美的バランスを求める。概略以上であるが、これら諸条件の履行は製品の多様性を創り上げ、かつシステムデザインによる室別機能構成を可能ならしめるものとする。

なお、これまで3ヶ年間に亘る資料により設計図集を編集し鹿児島県室内装飾協同組合を通して関係方面への配布を行っている。又、企業一部ではデザイン資料として活用を始めており今後一層のデザイン技術指導を高め、波及効果を期待したい。

2. 間伐材利用化のデザイン開発研究

今年度標記デザイン開発に関する実施要領については次の諸条件を前提に製品化を試みた。

- ①対象品種……………実用性の高い屋内外用品の開発

②製品化の目標…県外消費地向け移出品を対象とする。

③製品の形態及びイメージに関して…加工容易なシンプルデザインを考慮

- 屋外用品（素朴性、野趣性の表現）
- 屋内用（簡素なセカンドファニチュア）

④使用材料…スギ、ヒノキ材の60%以上加工材を使用。

⑤加工法……簡易構造体による量産性の考えられるもの。(これによるコストダウン化)

次にデザイン内容を製品別に総め、その代表的製品例を示す。①脚物（ガーデンセット）②箱物（サイドボード）③一般製品（ユニット棚）④工芸品（ペンシルスタンド）⑤その他（家庭菜園用具等）、以上に基づきデザイン資料として設計図集を作成し配布を行った。

関係企業では、これらを参考に多角的な製品開発を行い、この間当場としても巡回技術指導等で濃密な実地指導を行い次のような成果に結び付けたものである。

なお、試作予算については林産機関の協力で計画通り進めたものである。

成果としては、①第2回さつま小丸太作品展への出品（鹿児島会場）、②第2回於東京、鹿児島大物産展出品（デパート会場）③県内主要地における巡回展示。

以上を通して県外受注に相当数が成功し、目下継続生産に移行している。今後も間伐材の開発については、このような方法で企業メリットの掘起しに総合的に研究指導を強めたいと考える。